「福島復興学ワークショップ in いわき」

ポスターセッション

実施概要

ポスターセッションは2部制で実施します。

第1部 15:05~15:35 第2部 15:35~16:05

※第1部にポスター番号偶数、第2部にポスター番号奇数の発表者で行います。

※会の進行により時間が変更となる可能性があります。ご了承ください。

ポスター 番号	タイトル	概要	担当者	主な 所属機関
1	営農再開地域に おける先進的な オーガニック作 物生産技術の開 発	本事業では富岡町と連携し、有機栽培に適したイネ品種開発など東京農工大学の科学的な知を活用し、イネゲノム情報、IoT, AI、ロボットを取り入れた除草、水管理などスマート有機農業を推進し、富岡町の酒米を原料とするオーガニック日本酒プロジェクトを推進する。これら技術の開発・普及のための人材を育成する。	大川泰一郎	東京農工大学
2	日本版ハンフォ ードモデル構築 による福島復興 創生	本事業は、かつて放射能汚染が深刻であった米国ハンフォード地域が、現在全米で最も先進的なエリアとなった復興創生モデルを、いかに福島浜通り地域へ適応させるかその方策を調査研究することを趣旨としている。ポスターでは、ハンフォード地域の復興創生方法を紹介するとともに、本事業の今後のスケジュール等を解説する。	中村隆行 草野幸雄 松本梨奈	東日本国際大学
3	楢葉町を起点と したイノベーション・コースト 構想事業を推進 するための教育 研究事業	楢葉町に設置した東京大学アイソトープ総合センターならはサテライトを拠点にして行っている以下の3事業についての活動計画・内容を報告する。①イノベーション人材の裾野拡大を目指した教育プログラム事業 ②イノベーション・コースト構想の実現に向けた研究事業③風評被害の払拭と農林水産業の復興のための事業	川村 猛	東京大学
4	飯舘村における 農業再生と風評 被害払拭のため の教育研究プロ グラム	学生を飯舘村の現地に連れて行くことで学生に「現場を見ることの重要性」を実感させると共に、教員とフィールド研究を行うことで大学の社会的価値と地域復興のあり方を考えさせる機会を設ける。今年度は大学の農業系サークルと飯舘村農業委員会が協働で除染後の農地でそばを育て、その生育環境を遠隔モニタリングする。	溝口 勝 杉野明弘	東京大学
5	CENTER for Wind Energy Phase-2	いわき市での風力産業化に向け、これまで東大先端研が培ってきた研究・人財育成の知見を活用し①即戦力人財となる現役世代(地元企業)の育成支援、②将来を担う人材育成として関係高等教育機関と連携した風力業界との教育交流事業を実施する。現在と将来に渡る中長期的な実践型風力関連産業人材育成を進める事業である。	飯田 誠 折笠 雄司	東京大学
6	飯舘村環境放射 線研修会	福島県飯舘村において、環境放射線と関連する自然科学的・人文社会学的な研修を行う。放射線に関する偏りのない幅広い科学的知識を得ると共に、その実態を正しく理解する機会を与え、社会リスク、心理等の多面的な議論を行う。研修を経た参加学生の中から将来福島の復興に大きく関与していく人材が生まれることも期待する。	中野貴志 青井 考 高橋賢臣	大阪大学
7	広野町における 未利用資源の探 索と資源化 み かんプロジェク ト	広野町のシンボルであるみかんから、有用微生物の探索を行っている。この活動には、微生物について特別授業を受講した広野町立広野小学校の6年生にも参加している。みかん由来の特産品づくりを目指している。農産未利用資源としてもみ殻に注目し、広野町らしい利用法を提案していく予定である。	内田修司	福島高専

ポスター 番号	タイトル	概要	担当者	主な 所属機関
8	廃炉ロボット技 術のドローン農 業応用に係る研 究および教育	廃炉ロボット開発で培ってきた技術成果をドローン技術に移植して、小規模農場、山間部農場のような機械化が難しかった農場に導入することで、農作物の発育状況の定量評価を可能にし、将来的な農薬散布や施肥時期を推測するとともに、農家の高齢化を見越した、農作業の肉体的な負担端を軽減しようとするものである。	川妻伸二塙英明	福島高専
9	葛尾村における エゴマ産業の拡 大と地域活性化	本事業は、以下の3つを柱として葛尾村での復興に係る活動をしている。すなわち「高品質のエゴマ商品の商品価値を高める取り組み」「葛尾ブランドのエゴマ商品の販売促進のための取組」「心と体の健康支援の取組」である。これらの活動から、葛尾村村民の帰村率を上げることに貢献することを目標としている。	高橋 徹	郡山女子 大学
10	"オール近大"川 俣町復興支援プ ロジェクト	総合大学としての研究力を活かし、川俣町の早期復興を支援するために立ち上げたプロジェクト。福島イノベ事業では、「除染研究」「ものづくり」「特産品開発」「集落復興」に取り組んでいる。今日は、近大ものづくり工房が主体となって編成された「川俣ものづくり探検隊」がおこなった活動および今後の展望について報告する。	中田 直樹	近畿大学
11	浪江町をフィー ルドとした放射 線研究・教育プ ログラム	弘前大学の学部横断組織「福島県浪江町復興支援プロジェクトワーキンググループ」の委員等と浪江町役場内弘前大学浪江町復興支援室とともに、浪江町内をフィールドとした学部学生及び大学院生への教育プログラム・帰還後の住民や町職員の生活環境の改善・回復、健康管理のための調査研究や教育プログラムを開発、実践する。	細田 正洋	弘前大学
12	住民と学生の協 働による「ロハ スピレッジかつ らお」復興まち づくり	日本大学工学部と葛尾村との協定に従い、本学が掲げる「ロハス工学」に基づき、住民と学生との協働による持続可能なまちづくりを目指す。その内容は、① 交流の場と社会インフラ、②グリーンインフラ、③ドローン技術の活用からなり、これらの技術を統合した3Dマップと教育プログラムの構築、及びこれらの利活用を図る。	浦部 智義	日本大学
13	「環境エネルギーまちづくり」 を通じた地域社 会イノベーション	福島県新地町において、地域エネルギーシステムの将来ビジョン構築、社会動態分析とニーズ把握に基づく定住環境検討、それらを統合した共創型地域マネジメントを、公・民・学連携のまちづくり拠点「新地アーバンデザインセンター」を設立して実践する。これにより、「環境エネルギーまちづくり」のモデルを形成する。	土屋 依子 草苅 康子 池田 泉 池田 晃一	東京大学

ポスター 番号	タイトル	概要	担当者	主な 所属機関
14	東北大学の復興 知を活かす葛尾 村の創造的復興	東日本大震災から8年が経過し震災復興関連活動も減少傾向にあるが、学生のなかには「東北大学に来たのだから、東日本大震災について学びたい」と考える者は非常に多い。 こうした人材と地元福島県の大学生・地域住民との交流を促しつつ復興のための教育・研究・社会貢献活動を行う拠点の形成へと結びつける。	坪井真喜	東北大学
15	福島浪江町における農業"新興"に向けた取り組み〜担い手育成に向けて〜	浪江町の農業復興のボトルネックとなっている"ソフト面"を支援するため、東京農業大学の"復興知"を結集し、①就農拡大への取組み、②6次産業化推進の取組み、③スマート農業推進の取組みを展開し、"復興"から一歩進んだ農業の"新興"を目指す。本年度は学生による現地での活動を本格化させたい。	黒瀧 秀久 菅原 優	東京農業大学
16	東京農大コーデー 東京農大コージェーデー 東京では、東京では、東京では、カージェーでは、カードのでは、カーでは、カードでは、カー	東京農業大学は、2011年から相馬市を中心として、復興支援プロジェクトを大学をあげて継続してきた。この環境回復と産業振興の取り組みを技術と経営の両輪から推進し、今年からは地元の高校生や農業者との共創により、多くの住民が浜通り地方に安心して住み、働き続けられるような地域としていくことが目標である。	半杭 真一	東京農業大学
17	ドローン人材育 成から始まる地 域産業の活性化 〜たむらモデル の高度化・普及 事業〜	福島県田村市で実施している、教育・研究・実践活動を、「ドローン人材育成プログラム」「ドローン産業振興プログラム」「ドローンによるソーシャルイノベーションプログラム」と位置づけ、それぞれのプログラムを通じた「講座」「検証」「熟議」から、分野別の活動内容について報告する。	南政樹原田久美子	慶応義塾 大学
18	モビリティ・イ ノベーション社 会実装・産業創 出国際拠点の構 築	モビリティ・イノベーション連携会議に参画する大学・研究機関メンバーを中核に、産学共創による拠点を構築し、次世代モビリティ(自動運転、EV、コネクテッドモビリティ、新サービス(いわゆるCASE))の社会実装と新産業創出・人材育成及びそれらによる国際連携を推進する。	鈴木高宏 中山幸二	東北大学
19	ドローン産業振 興及び人材育成 プロジェクト	東京大学が有するドローンに関する「知」を「復興知」とするため、南相馬市に投入している。東京大学の学生を率い、南相馬市の小中学校に出向き、児童・生徒に工学教育の一環として、ドローンを用いたプログラミング授業を行っている。また、福島ロボットテストフィールドを用いたドローンの最先端研究を実施中である。	土屋 武司	東京大学
20	富岡町における イノシシ中の放 射性物質濃度評 価	本調査は捕獲されたイノシシ中の放射性物質濃度を測定することによって、イノシシの行動生態学的特徴と放射性セシウム濃度との関連やイノシシを摂取した場合の内部被ばく線量を明らかにすることを目標とする。住民、行政と協力してイノシシの被害管理・利活用の在り方を検討することを目指している。	折田真紀子	長崎大学

ポスター 番号	タイトル	概要	担当者	主な 所属機関
21	早稲田大学ふく しま広野未来創 造リサーチセン ター事業	本事業は、多世代かつ多様なアクターの参画による「ふくしま学(楽)会」という知識創造の場を形成し、福島復興の具体的な提案づくりから実践まで行う体制構築を目指している。特に、第3回ふくしま学(楽)会では、「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ(SI構想)」を提案し、現在その具体化を進めている。	李 洸昊	早稲田大学
22	県内外で避難生 活を継続する 大熊町町民の心 の健康イノベー ション	本事業は、震災後1年目から大熊町役場が行う精神保健活動に様々な支援活動を行ってきた継続性を活かし、震災から8年の経年変化で新たに生じた精神的健康課題の解消と回復状態の向上を目指す。大熊町役場職員と連携してアクション(活動)リサーチ(調査)、実態調査、セミナーを通じて心の健康イノベーションを行う。	天谷真奈美 山之内智子	京都大学
23	浜通りロボット 人材育成事業 - RTF 活用と WRS 参加に向 けて-	○浜通りにおいてロボット産業創生・発展に必要なロボット及びロボットに関連する ICT 技術を持った人材を育成する。 ○ワールドロボットサミット2020に向けて、浜通りにおけるチーム編成、産学連携、ロボット技術共有・実習などの推進を支援する。	屋代 眞	会津大学
24	リスク・コミュ ニケーショした 関学に 関学に 関連 がイノコ と は 、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ に り に り に り に り に り	福島復興へ向け、リスク・コミュニケーション工学、除染科学、ロボット計測工学を融合し「復興学」という新しい学問領域を構築し、大学等の研究者ネットワークを活用して知の実践・集積を図り、大学院生実習や小中学校理科・ロボット・文化教室支援等を通して人材育成を行い、地域企業・自治体等と協力し産業振興に資する。	尾嵜 進 池田 遼 飯嶋 勇樹	東京工業大学
25	福島県浜通り産 米の「食と農の 特性」の明確化 と地域・食育振 興	震災・原発災害以前から評価が高くなかった浜通り産(2018 年産)の米の品質・食味を評価した。その結果、デンプン等の貯蔵物質の蓄積構造は良好で、アミロース・タンパク質含有率が低く、炊飯米の微細構造も高品質・良食味米の特徴を有していた。浜通り産米の高評価の披瀝、食農教育の促進が期待される。	新田 洋司	福島大学